

前橋市民の男女共同参画に関する意識について



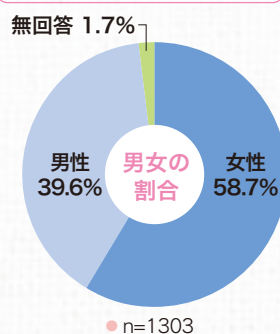
～男女共同参画に関する市民調査結果から見えること～

前橋市では2003年に「まえばし男女共同参画推進条例」を制定しました。その条例に基づき基本計画策定をしてきました。今回、2013年度に新たな基本計画を策定するため、その資料として、市民の皆様への男女共同参画社会に関する意識や実態を把握する目的で本調査を実施しました。調査結果の一部をお知らせします。

調査概要

- 調査対象** 市内在住の18歳以上の男女3,000人
- 抽出方法** 住民基本台帳から性・年齢階層別の人口割合に応じて無作為に抽出
- 有効回収数** 1,303票 (有効回収率43.4%) **調査方法** 郵送による配付・回収
- 調査時期** 2012年7月
- 調査項目** ①男女平等について ②人権について ③学校教育について ④家庭生活について ⑤子育て・介護について ⑥社会参加活動について ⑦職業生活について ⑧女性の社会参画について ⑨男女共同参画を進めるための市の施策について ※nは回答数を表します。

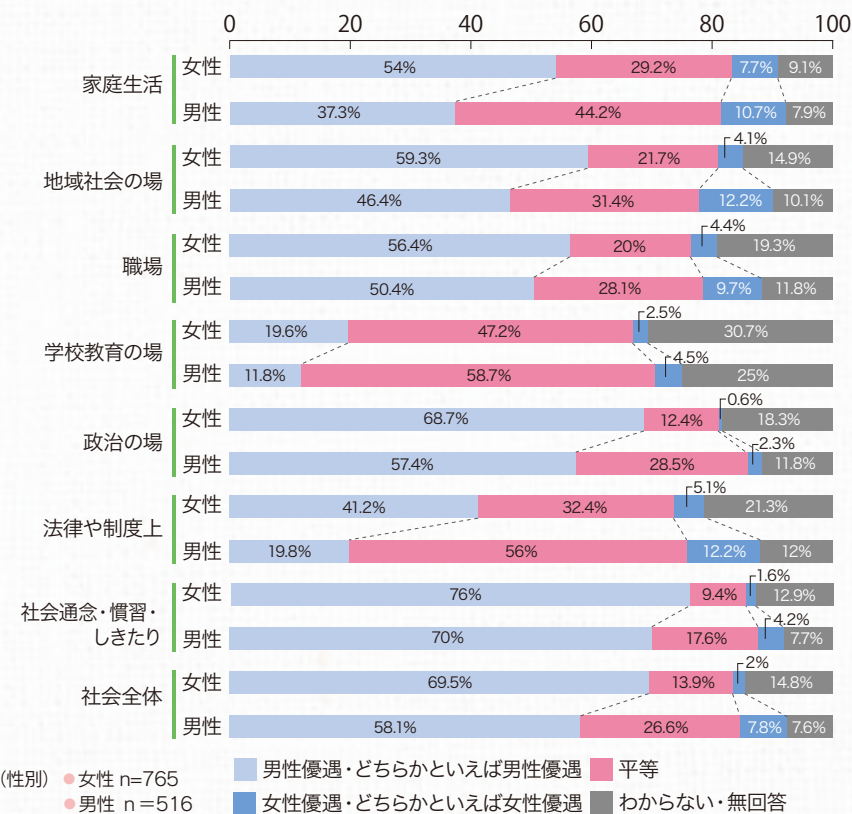
男女の割合円グラフ



男女平等について

Q 今の生活や社会の状況は男女平等?

男女平等

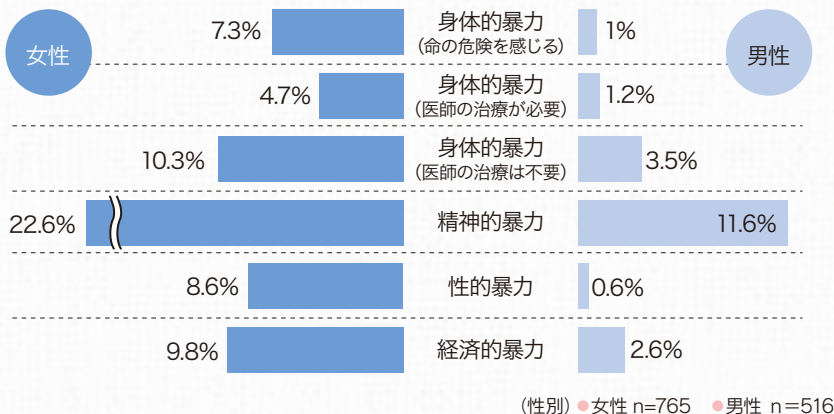


「家庭生活」の項目で平等意識が男性に比べ女性が特に低いのは、家事・育児・介護の負担の多くが女性にかかっているからかな。



平等の回答率は全ての項目で、男性が女性を上回っているけれど、男性と女性とで意識のずれがあるようだね。グラフでみるとまだまだ男性優遇の社会なんだね。

Q 配偶者や恋人などから暴力を受けたことは？



配偶者や恋人間の暴力は女性の被害者が圧倒的に多いね。



暴力は犯罪だよ！困った時は相談機関を利用してね。

DV (ドメスティック・バイオレンス) とは

配偶者など親密な間柄で、相手を支配するために繰り返される暴力のことです。

身体的暴力

殴る、蹴る、首を絞める、引きずり回す、突き飛ばす、髪を引っ張る、物を投げつける

精神的暴力

怒鳴る、自殺すると脅す、人格を否定する言葉を吐く、携帯やメールのチェック、無視

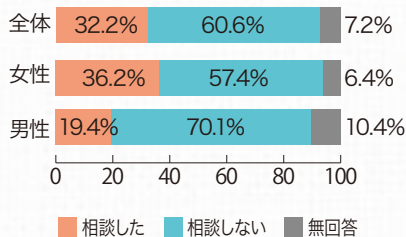
性的暴力

性行為の強要、避妊に協力しない、ポルノビデオや雑誌を無理に見せる、中絶の強要

経済的暴力

生活費を渡さない、使い道を細かくチェック、働くことを妨害、収支を知らせない

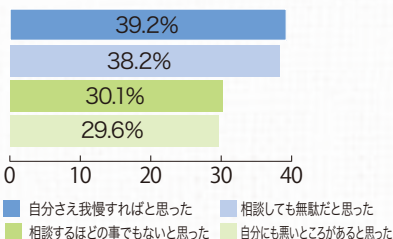
Q 相談したか？



●全体 n=307 ●女性 n=235 ●男性 n=67

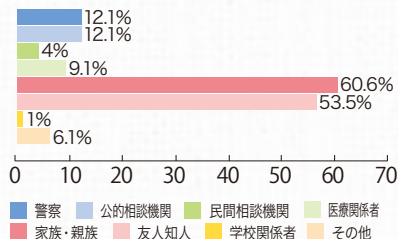
Q 相談しなかった理由？

(複数回答、上位4理由)



●n=186

Q 相談先は？ (複数回答)



●n=99

……デートDVの講座に参加して……

若い人達の中で、おきているデートDV。学生の私の周囲でも相手の支配や束縛を「愛されている」と勘違いしている人は、けっこういると思います。「暴力は愛情表現」とか「自分が悪いから」と自分をごまかして付き合いを続けていくと、DVが当たり前になってしまい、その歪みに気付けなくなってしまうようで怖いと感じました。

DVなんて私には関係ないと思っていましたが、講座を通して誰もが、何かのきっかけさえあれば起りうるものなのだ実感しました。本当に相手のことが好きであればお互い尊重し合い、嫌なことは「イヤ」と言い合える関係でなければと思います。(周防)

相談機関

★命の危険があるような暴力を受けたら
警察へ(110番)

★DVでお悩みの方はまず専門の相談機関へ

- 群馬県女性相談センター (☎027-261-4466)
月～金9:00～20:00、土・日・祝13:00～17:00
- 警察安全相談室 (☎027-224-8080)
24時間対応
- 前橋市男女共同参画相談室 (☎027-898-6520)
月～金9:00～16:00

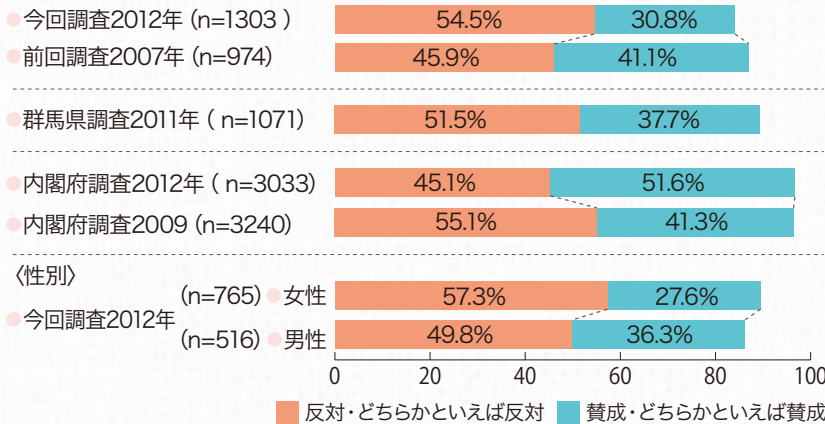
★一時避難先として

公的シェルターや民間シェルターがあります。



Q 『男は仕事、女は家庭』という考え方は？

〈全体〉



昨年の内閣府の調査では「賛成」が「反対」を上回ってしまったね。若者の就職難や育児や介護の負担が女性に多くかかっている現状を反映しているのかもね。

前橋市の調査では「反対」意見が前回は上回り、半数以上になったね。男女別に見てもやはり女性の「反対」意見の方が多いね。



共働きと非共働きの男性の家事・育児・介護の時間がほとんど変わらないということは、働いている女性の負担が多いという事かしら。



男性は家事・育児・介護に参加したくてもできない長時間労働に問題があるようだね。

家庭・育児・介護の時間 (共働き状況) ※回答者本人と配偶者の仕事に関する組み合わせ

平均時間	共働き家庭 (夫婦正規)	準共働き家庭 (正規+パート)	非共働き家庭 (正規+専業主夫・婦)
女性	4時間03分	4時間53分	7時間05分
男性	1時間06分	0時間48分	1時間02分

仕事の時間 (共働き状況)

平均時間	共働き家庭 (夫婦正規)	準共働き家庭 (正規+パート)	非共働き家庭 (正規+専業主夫・婦)
女性	8時間27分	5時間47分	3時間24分
男性	10時間18分	10時間34分	10時間04分

n=116 n=132 n=166

Q 子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なことは？

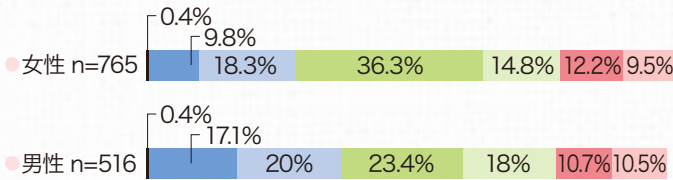
1位

保育施設・保育制度 (延長保育や病後児保育など) の充実 (60.9%) 全体 n=1303

2位

家庭との両立を図れる職場環境づくり (育児休業、フレックスタイム導入、労働時間の短縮など) (45.5%) 全体 n=1303

Q 高齢者介護が女性の役割となりがちなことに関して？



■ 女性の役割として当然
 ■ 介護される側のことを考えると、女性が介護の方が良い
 ■ 問題はあるが、現状ではやむをえない
 ■ 男性も女性と共に介護するべき
 ■ 男女に関わらず、主に家族が介護すべき
 ■ 原則として、国や地方自治体が主体となって行うべき
 ■ その他

子育て支援

「まえばしパパ・ママ・子育て応援ブック」

子育てに関わるいろいろな支援が載っています。(例えば病後児保育、休日保育、一時預かり、ショートステイ、夜間保育に関してなど)

前橋市子ども課 (☎220-5701)
市のHPからもご覧いただけます。



高齢者支援

前橋市地域包括支援センター

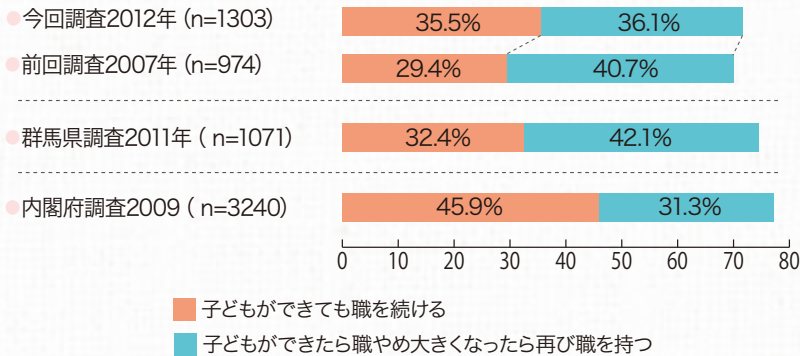
- 介護についての相談
- 高齢者虐待の相談
- 成年後見制度の紹介 (財産管理支援)

前橋市介護高齢課 (☎898-6275)
市のHPからもご覧いただけます。

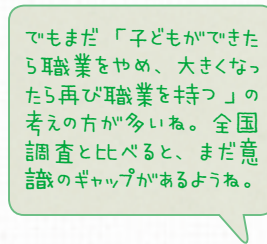


Q 女性が職業をもつことについては？

〈全体〉



「子どもができてでも職業を続ける」と考える人が前回より多くなったね。



でもまだ「子どもができたから職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」の考えの方が多いね。全国調査と比べると、まだ意識のギャップがあるようね。



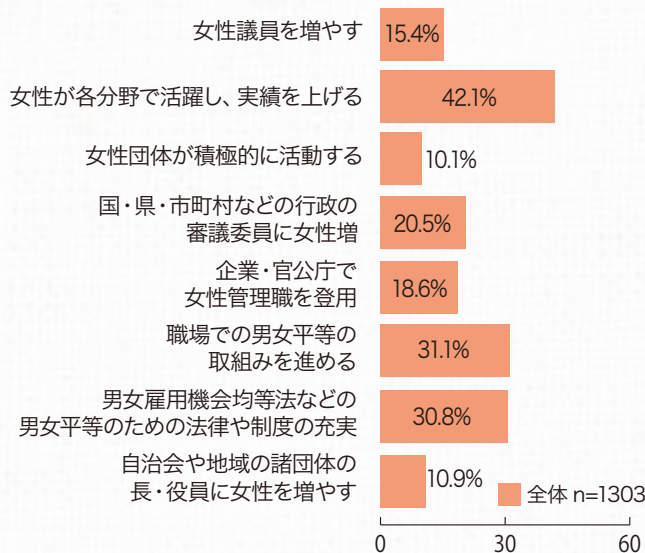
ママの再就職支援



ハローワーク前橋

- 子育てママの就職支援
 - 仕事と子育ての両立のための情報提供
- 前橋公共職業安定所 (☎290-2111)

Q 女性の社会参画で大切なことは？ (複数回答)



近年議員や閣僚は双方の性が40%以上いなくなるとはならないというクォータ制を導入する国が欧米諸国やアジア、アフリカで増えてきたね。

少子超高齢化社会の日本では、女性の力がますます必要になってくるね。そのためにはまず、ポジティブ・アクションの推進だね。



ポジティブ・アクション

女性の採用拡大・管理職の増加・職域の拡大、職場環境・風土の改善、女性の勤続年数の伸長などで働く女性の活躍を推進する。



- 日本の衆議院議員に占める女性議員の割合は(11.3%) 世界186ヶ国中121位(2011.3現在)
- 前橋市議会議員38名中女性7名(18.4%) 本市における女性議員数最多となる。(2013.2.17市議選の結果) 前は43名中女性5名(11.6%)

【人権に関する市民意識調査】、【男女共同参画に関する市民意識調査】ともに、詳しい結果は、前橋市ホームページからそれぞれ入力し検索していただくごと覧になれます。また結果報告書や概要版は市立図書館(分館含む)、市民サービスセンターで、ご覧いただけます。

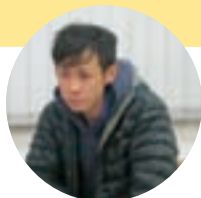
地域で取り組む男女共同参画

「新しい発想で地域づくりに取り組む」

平成16年12月に前橋市と合併した宮城地区は、合併による再出発を機に地域おこしの輪が広がっています。旧来の地域の枠組みを見なおし、有志が結集し「みやぎ地域づくり交流会」を結成しました。今回はその「交流会」の取り組みを紹介します。



おおさき ひろあき
大崎 博之さん



かばさわ やすゆき
樺沢 安之さん



うのの みさこ
上野 実さん



とうみや ひでき
東宮 秀樹さん

今回お話を伺ったみやぎ地域づくり交流会の方々

きっかけは大学の調査研究

「交流会」ができたきっかけは、平成19年高崎経済大学の櫻井常矢准教授(地域政策学部)とゼミの学生による地域づくり研究でした。

みんなで見直した宮城の個性

調査の背景となった「一地域一自慢」のワークショップで、地区の人たちが「自分たちの特徴」を語り合ったことも「交流会」結成の後押しになっています。

「交流会」は、自治会をはじめ、育成会や消防団等の各種団体から代表が結集。翌平成20年に正式にスタートしました。

当初から参加の上野実さん(広報委員長)は「宮城村は小、中学校がそれぞれ一校。9年間一緒なのでみんな知り合いです。伝統文化も豊富で良い環境ですが、一方で閉塞感も生み出していました。何とかしたいという人たちが集まって、色々話し合いをしました。その中から徐々に形が見えてきました」と、語ります。

若い世代が参加する各部会

「交流会」の会員は現在54名。各種組織の構成員を含めると300名以上にもなります。

会には「ふれあい交流部会」・「自然文化交流部会」・「福祉交流部会」の三部会と、「広報委員会」があります。

「交流会」の特色の一つが、会員の年齢の幅広さ。地域をよく知ったベテランの他に、実務を引っ張るのは、20代から50代。「保護者のほとんどが知り合いですね。」と中学校のPTA会長をしている東宮さん。

新しい発想でさまざまな企画

人気の行事「荒砥川自然満喫会」は、今年(2012年)で3回目。自然文化交流部会は5



▲野草の天ぷらを味わう荒砥川自然満喫会

月の荒砥川沿いのウォーキングに向けて、流域の草刈りや清掃美化活動するとともに、当日は野草の天ぷらを参加者に振舞います。周辺で採れるクズやマユミの新芽、ドクダミ、ヨモギなどの天ぷらはいつも大人気。

福祉交流部会の「ふれあいサロン」は、高齢者や地区住民のコミュニケーションの場となっています。

「みやぎいいもん祭り」は、ふれあい交流部会が担当し、文化祭とセットの大イベント。「中学生も手伝ってくれます。地元産のサツマイモを使った『いいもんケーキ』は、参加者に大好評でした。」とイベントを担当した大崎さん。

7つの町の個性を生かした「ゆるキャラ」誕生

原案を作った樺沢安之さんは、アメリカ

でデザイナーなどをしながら10年生活した経歴を生かし、地区のキャラ作りを担当しました。

「アメリカの地域交流は日本とは違ったスタイルです。ファーマーズ・マーケットという農民の直売イベントなどは、街全体を巻き込む盛り上げ方が上手ですね。故郷の宮城に戻り偶然面白そうなイベントを見て、会に参加しました。何かやりたいと思い、キャラを提案したんです。」と語ります。

地域、年齢、男女を超えた交流の輪を広げたい

「交流会」は発足5年目を迎え、活動の幅を広げて、会合やイベントなどへの参加者も増えています。「ゆるキャラ」も、広報誌や建物のシャッターに描かれるなど、利用が広がっています。

今後の活動について、上野さんは「人と人との繋がりが一番の目標。若い世代も含めもっとたくさんの人の参加を図っていきたい」と、話します。樺沢さんは「アメリカ生活の経験を生かして新しい人でも自由に交流できる場を作りたい」と、提案します。東宮さんは「色々な会をつくり、これまで地域の集まりに縁がなかった人たちを呼び起こしたい。」と、抱負を語ります。

前橋市の各地区にはそれぞれの地域おこしの形があります。宮城地区の「交流会」は、組織作りや個性的な企画など、新しい視点や提案力をもった独自性が注目されます。(高坂・池田)



宮城地区は、前橋市の中心部から北東に位置します。赤城南麓^{なんろく}の豊かな自然環境と、赤城神社や赤城温泉、国指定重要文化財^{あぐざわ}の阿久沢家住宅、千本桜、ぐんまフラワーパークなどの観光資源にも恵まれ、また農畜産業が盛んな地域です。

いきいき職場訪問 (宮城種豚センター)

“TON TONのまち まえばし” 中でも宮城地区は養豚業が盛んです。そこに全国から動物好きな若者たちが集まるユニークな職場があります。思わず抱っこしたくなる可愛い子豚たちが大切に育てられている宮城種豚センター。

ここで働く^{たのむ} 棚木雅子さん・^{まよこ} 前田哲也さんが取材に応じてくれました。

- 棚木 雅子さん 宮城県出身
就職 3 年目 分娩担当
- 前田 哲也さん 太田市出身
就職 1 年目 分娩担当

就職の動機は？

前田：就職希望でしたが、社会経験を積んでからと思い、生き物を扱う職種を探しました。この会社のHPを見て、実際に見学をし、会社の理念も職場の雰囲気も良かったので応募しました。大学の研究室でマウス等は扱っていましたが、畜産は未経験でした。

棚木：動物が大好きで、畜産に携わる仕事がしたいと思い、このHPを見つけて、応募しました。職場の雰囲気が良く、一緒に就職した同年の人も同じ担当で、最初は大学生気分でした。とにかく経験が大事で、現場で学ぶことが多いです。

就労後の目標は？

前田：当初は全てが不安でした。雑用の仕事から入り、豚舎の移動補助を経験して、分娩担当になりました。仕事の内容は、60～100頭の分娩介助（1頭平均13～14匹 多い場合は20匹出産）・離乳・尻尾切り（生後3日以内）・去勢（生後5～6日）・餌付等です。

先輩達の親切な指導で、1年たって自分の幅が広がった気がします。これからは後輩に指導する立場になりますが、自分の役割をきちんと果たし、物事の判断を的確・迅速にし、仕事を切り廻す力と知識とを養っていきたいです。

棚木：学校で学ぶことと現場で学ぶことはやはり違います。生き物を相手にするので現場経験が何より大切です。

1年目は子豚が本当に可愛くて、子豚に癒されていました。けれども今は、経営的な面から「家畜」として見る目ができました。一頭



▲豚の様子を見る棚木さんと前田さん

の母豚が出産した子豚が、揃った大きさとで成育していく、そこに達成感を感じるような飼育が目標です。

生き物相手の難しさや楽しさは？

前田：難しいことだらけです。たくさんの子豚の中で異常がある子豚をいち早く発見することや子豚を平均的に肥育させること…。

楽しいことは一番可愛い時期に世話をできることですね。先輩たちは、子豚の一匹一匹が見分けられるんです。まだ先のことですが、子豚の生育不良を発見できるようになりたいですね。次のステージ^{*}で大きく育った子豚を送り出すことを楽しさにできるようにしたいです。

*ステージ

種付→分娩→種付(再度)→離乳→肥育→出荷(180日前後で115kg目安)

棚木：成育の悪い子豚の見分け方が大変です。若い母豚は、子豚の数に見合う量のお乳が出ないことがあり、子豚の成育が悪くなります。そのためお乳の豊富な他の母豚へ生後1週間くらいで里子に出します。でも母豚が里子を拒否したり、身体が大きいため、子豚が下敷きになる事故も起きます。常に注意深く見守らなければなりません。楽しさはやはり子豚に癒されることですね。

仕事のなかで男女の格差を感じますか？

前田：担当ごとに男女同じ仕事内容です。確かに、男女の視点の差では、デリケートな部分は女性が、また大きな豚の移動は力のある男性がむいているでしょう。男女が一緒に担当しているので、お互いにアドバイスも受けやすいです。

棚木：基本的にはありません。互いの良い面を生かすという点での差はあります。例えば力を要する作業面と細かい作業を要する面を、男女がそれぞれうまくバランスをとりながら作業をしています。同じ作業でも、男女の視点の違いがあるところが良いと思います。

ワーク・ライフ・バランス (休日の過ごし方は?)

前田：基本的に残業なしで、休日もきちんと取れます。好きな野球などをしますね。

棚木：隔週週休二日制なので、休日はショツピングなどを楽しんでいます。



▲種豚センターの従業員のみなさん

小堀 長久専務さんの一言

「消費者を幸せにできる豚肉を追及・社員の継続的な幸福を育む職場・地域コミュニティとの共生発展と感謝・豚を愛し続ける」という理念を掲げています。

交配作業も近年、機械化が進み、体力を要する一部の作業以外は、性別に関りなくでき、柔軟な組織作りをと考えています。

取材を終えて

可愛い子豚を抱きたかったのですが「^{こうい}口蹄疫^{えき}等のウイルス予防」の観点から、肥育場には入れませんでした。一頭の感染から重大な事態になるため、予防管理が徹底されています。

若い社員の皆さんがしっかりした前向きな目標を持っていらして希望が持てました。畜産業の現状を含め、多くの学びができた取材でした。(鈴木・池田)

[宮城地区データ]

(2月末日)

住民数	8,437名(2,810世帯)
構成 男	4,163人
女	4,285人
65歳以上	2,218人(全住民26%)
75歳以上	1,215人(全住民14%)

イメージキャラクター受賞作品

男女共同参画を推進するため、市民の皆様様に親しみ、愛着が持てるようなイメージキャラクターを募集したところ、デザイン部門58点、ネーミング部門37点と沢山の作品が寄せられました。受賞作品は次のとおりです。

デザイン部門



市長賞

ほりうち 智加さん

男女のつながりがめばえますようにということ、情報誌の「新樹」をイメージ化してみました。



優秀賞

たかはし 大樹さん



優秀賞

こばやし 彩香さん

ネーミング部門



市長賞

「みどり主任・みずた主任」

いのうえ ひさお 井上 久夫さん

「水と緑のまち」前橋市のキャッチからイメージしました。



優秀賞

☆きらりん☆

つかだ みわ 塚田 美和さん



優秀賞

びょー君とどう子ちゃん

おおたけ ことは 大竹 琴葉さん

わたしの防災力

～もしものときこそ。女性の視点を大切に～
防災はイメージする力～「もしも」のとき、わたしは？

携帯防災グッズ

【携帯トイレ・アルコールティッシュ・携帯ラジオ(※)・防犯ブザー(ライト付)・あめ・小銭・ペットボトル飲料・防寒シート】

※ラジオには手回し充電式で携帯電話の充電などできるものもあります。

出典及び参考「YOKOHAMAわたしの防災力ノート」

(公財)横浜市男女共同参画推進協会
横浜市市民局 発行

ポーチに収まる
防災グッズを
考えてみました。



編集後記



◎互いを尊敬し、思いやり、いきいきと前向きに仕事に取り組む若者達から、自然体で向き合うことが男女共同参画社会の基本であることを学ばせていただきました。

《鈴木 美知子》



◎今回宮城地区の新しい形の地域おこしを取材。地元の活性化には、広い視野と同時に、足下に埋まっている宝を見つける新鮮な感性が重要だと感じました。

《高坂 均》



◎地域の班長の仕事も残りあとわずか。地域の男女共同参画は「自分たちが暮らすところだからこそ住みやすくしていきたいという“志”から」ということを学びました。

《角田 のぶ子》



◎いじめ・体罰の事件が続いています。この問題は、根底に弱者への人権無視があります。本誌の調査結果(詳細は市のHP)を活用して人権感覚を育てましょう。

《池田 榮一》



◎男女共同参画が確実に進んでいるのを、地域行事や企業の様子から感じます。考え方を变えるのは難しいですが、不可能ではないですね。

《周防 香澄》

男女共同参画室だより

《平成24年度 男女共同参画セミナー》

《誰もが輝ける未来へ～自分らしくいきいきと～》

勝間和代さん講演会

「しくみがわかれば、意外と楽に生きられる」

開催日：25年3月3日(日) テルサホール

経済評論家であり内閣府の男女共同参画会議議員でもある勝間和代さんの講演会には500名を超える参加者がありました。北欧との比較などを盛り込みながら、これからの男女共同参画社会の実現に向けて、分りやすくお話していただき、とても好評でした。



発行日：平成25年3月15日 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市 いきいき生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館1F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

<<新樹をご希望の方はご連絡ください。29号のご意見・ご感想もお待ちしています！>>